



2026年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年7月29日

上場会社名 株式会社 ヤクルト本社 上場取引所 東
コード番号 2267 URL <https://www.yakult.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 成田 裕
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 大後 忠 TEL 03-6625-8960
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第1四半期の連結業績(2025年4月1日～2025年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第1四半期	116,586	△4.9	10,906	△32.2	17,190	△22.9	11,597	△17.7
2025年3月期第1四半期	122,644	0.4	16,098	△5.2	22,288	6.9	14,089	7.5

(注) 包括利益 2026年3月期第1四半期 △5,498百万円(—%) 2025年3月期第1四半期 38,177百万円(30.2%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2026年3月期第1四半期	39	36	—	—
2025年3月期第1四半期	46	48	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第1四半期	832,524	599,385	65.5
2025年3月期	864,317	629,515	66.4

(参考) 自己資本 2026年3月期第1四半期 545,607百万円 2025年3月期 574,131百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
2025年3月期	—	32.00	—	32.00	64.00
2026年3月期	—	—	—	—	—
2026年3月期(予想)	—	33.00	—	33.00	66.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	246,500	△3.4	27,000	△20.1	37,500	△17.1	23,500	△14.5	80	18
通期	495,000	△0.9	53,500	△3.4	69,500	△8.4	45,500	△0.1	155	23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 —社 (社名) 、除外 —社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注) 詳細は、添付資料10ページ「四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期1Q	331,985,236株	2025年3月期	342,090,836株
② 期末自己株式数	2026年3月期1Q	38,880,315株	2025年3月期	43,905,569株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期1Q	294,661,120株	2025年3月期1Q	303,142,435株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料5ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算短信補足説明資料等の入手方法)

当社は2025年7月29日 (火) に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この説明会で使用した資料等については、当社ホームページにて掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

①業績全般

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果等により、緩やかに回復しているものの、海外の景気動向による下振れリスクや、物価上昇等による影響に引き続き注意を要する状況にあります。

このような状況の中で、当社グループは、事業の根幹であるプロバイオティクスの啓発・普及活動を展開し、商品の優位性を訴求してきました。また、長期ビジョン「Yakult Group Global Vision 2030」に基づき、世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーを目指すとともに、中期経営計画（2025-2030）に立脚し、企業活動を推進することで、業績の向上に努めました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は116,586百万円（前年同期比4.9%減）となりました。また、利益面においては、営業利益は10,906百万円（前年同期比32.2%減）、経常利益は17,190百万円（前年同期比22.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11,597百万円（前年同期比17.7%減）となりました。

②セグメント別の状況

・飲料および食品製造販売事業部門（日本）

乳製品につきましては、当社独自の「乳酸菌 シロタ株」や「ビフィズス菌 BY株」などの科学性を広く普及するため、エビデンスに基づき、地域に根ざした「価値普及」活動を展開しました。

宅配チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Yakult（ヤクルト）1000」類を中心に、新規のお客さまづくりを実施するとともに、既存のお客さまへの継続飲用の促進を図りました。

店頭チャネルにおいては、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルト」類および「Y1000」類を中心に、視認性の高い売り場を展開するとともに、各種キャンペーンを実施し、店頭でのプロモーションスタッフによる「価値普及」活動を重点的に行うことで、売り上げの増大に努めました。

商品別では、「Y1000」について、カロリーと糖類を低減した乳製品乳酸菌飲料「Y1000 糖質オフ」を機能性表示食品として4月に発売しました。また、商品特長を端的に表現するために、乳製品乳酸菌飲料「ヤクルトファイブ」を「ヤクルトマルチビタミン」として4月に、乳製品乳酸菌飲料「Newヤクルトカロリーハーフ」を「Newヤクルト 糖質・カロリー50%オフ」として6月に、それぞれ商品名を変更しリニューアル発売しました。

一方、清涼飲料につきましては、4月から、原材料費の上昇および物流費・燃料費等の急激な高騰を受け、価格改定を実施しました。また、栄養ドリンク「タフマン」シリーズを中心に販売促進策を実施するとともに、目・ひざ関節・肌に関する健康課題がある幅広い年齢層をターゲットとした機能性表示食品「ぎゅっとクロセチン」「ぎゅっとグルコサミン」「ぎゅっとアスタキサンチン」を4月に発売しました。

このような取り組みを中心に販売強化に努めたものの、競合商品の台頭や物価上昇等、厳しい市場環境の影響を受け、乳製品および清涼飲料ともに、前年を下回る実績で推移しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門（日本）の連結売上高は59,633百万円（前年同期比4.8%減）となりました。

・飲料および食品製造販売事業部門（海外）

海外につきましては、1964年3月の台湾ヤクルト株式会社の営業開始をかわきりに、現在27の事業所および1つの研究所を中心に、39の国と地域で主として乳製品乳酸菌飲料「ヤクルト」の製造、販売を行っており、本年6月の一日当たり平均販売本数は約3,006万本となっています。

ア．米州地域

米州地域においては、ブラジル、メキシコおよび米国で「ヤクルト」などを製造、販売しています。

同地域では、米国における関税政策の不透明さ等による購買意欲の低下により、買い控えが見られたものの、広報活動等による販売支援を強化するとともに、取引店舗数の増加に努め、実績拡大を図りました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門（米州地域）の連結売上高は21,686百万円（前年同期比8.2%減）となりました。

イ．アジア・オセアニア地域

アジア・オセアニア地域においては、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、マレーシア、ベトナム、インドおよび中国などで「ヤクルト」などを製造、販売し、アラブ首長国連邦（UAE）などでは「ヤクルト」などを輸入販売しています。

ベトナムでは、積極的に販売促進策を展開するとともに、宅配組織の拡充と新規取引先の増加に努めた結果、実績は好調に推移しました。

中国では、「ヤクルト マスカット風味」の販売を4月から開始するとともに、積極的な販売促進策の実施や取引店舗数の増加に努めた結果、実績は好調に推移しました。

インドネシアでは、6月に発売した「ヤクルト マンゴー風味」について、広告展開および販売促進策の効果もあり、好調な出だしとなりました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門（アジア・オセアニア地域）の連結売上高は29,457百万円（前年同期比0.4%増）となりました。

ウ．ヨーロッパ地域

ヨーロッパ地域においては、「ヤクルト」などをオランダで製造し、同国を含め、ベルギー、イギリス、ドイツ、オーストリアおよびイタリアなどで販売しています。

同地域では、積極的な広告展開および量販店における販売促進策を実施した結果、実績は好調に推移しました。

これらの結果、飲料および食品製造販売事業部門（ヨーロッパ地域）の連結売上高は3,200百万円（前年同期比1.1%増）となりました。

・その他事業部門

その他事業部門には、化粧品の製造販売およびプロ野球興行などがあります。

化粧品につきましては、当社が創業以来培ってきた乳酸菌研究から生まれたオリジナル保湿成分「S.E.（シロタエッセンス）」の「価値普及」活動に重点をおき、お客さまの「内外美容」の実現と化粧品愛用者数および売り上げの増大に努めました。

具体的には、高機能基礎化粧品「パラビオ」シリーズのブランド活性化策を継続的に展開するとともに、今年度から、季節ごとに変化する肌悩みに対して適切な美容および商品情報を提供することで、お客さまの理解と納得感を促進し、継続的な愛用につなげる活動を推進しました。

プロ野球興行につきましては、各種イベントやさまざまな情報発信を行うなど、積極的なファンサービスに取り組み、入場者数および売り上げの増大に努めました。

これらの結果、その他事業部門の連結売上高は5,711百万円（前年同期比20.6%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は832,524百万円（前連結会計年度末比31,793百万円の減少）となりました。

純資産は599,385百万円（前連結会計年度末比30,129百万円の減少）となりました。主な要因は、自己株式の取得および円高により為替換算調整勘定が減少したためです。

また、自己資本比率は65.5%（前連結会計年度末比0.9ポイントの減少）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、当第1四半期連結会計期間における業績の進捗状況等を踏まえ、2025年5月13日に公表しました連結業績予想を修正しました。

第2四半期（累計）連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益
前回発表予想(A)	252,000	30,500	41,000	26,000
今回修正予想(B)	246,500	27,000	37,500	23,500
増減額(B-A)	△5,500	△3,500	△3,500	△2,500
増減率	△2.2%	△11.5%	△8.5%	△9.6%

通期連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前回発表予想(A)	506,000	58,500	74,500	49,000
今回修正予想(B)	495,000	53,500	69,500	45,500
増減額(B-A)	△11,000	△5,000	△5,000	△3,500
増減率	△2.2%	△8.5%	△6.7%	△7.1%

飲料および食品製造販売事業部門（日本）において、物価高による購買意欲低下の影響もあり、乳製品の販売実績が当初の計画を下回る見通しです。また、飲料および食品製造販売事業部門（海外）については、当初の計画通り推移しているものの、為替レートが当初の想定より円高となる見通しです。これらの結果、売上高および各段階利益は前回発表予想を下回る見込みです。

なお、前述の業績予想については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成しています。実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

(参考) 第2四半期（累計）個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表予想(A)	88,500	10,500	49,000	43,500
今回修正予想(B)	85,500	8,000	46,500	42,000
増減額(B-A)	△3,000	△2,500	△2,500	△1,500
増減率	△3.4	△23.8	△5.1	△3.4

(参考) 通期個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	177,500	19,200	67,000	60,000
今回修正予想(B)	172,000	16,000	64,000	58,000
増減額(B-A)	△5,500	△3,200	△3,000	△2,000
増減率	△3.1	△16.7	△4.5	△3.3

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	269,057	237,598
受取手形及び売掛金	55,404	58,935
商品及び製品	8,988	9,649
仕掛品	2,119	2,215
原材料及び貯蔵品	23,179	22,274
その他	19,895	18,073
貸倒引当金	△752	△708
流動資産合計	377,892	348,038
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	102,707	98,747
その他（純額）	186,917	187,435
有形固定資産合計	289,624	286,183
無形固定資産		
ソフトウェア	4,640	5,200
その他	5,642	5,010
無形固定資産合計	10,283	10,211
投資その他の資産		
投資有価証券	68,019	71,889
関連会社株式	87,432	84,874
その他	31,146	31,406
貸倒引当金	△79	△78
投資その他の資産合計	186,518	188,091
固定資産合計	486,425	484,486
資産合計	864,317	832,524

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,745	21,877
短期借入金	62,583	69,582
1年内返済予定の長期借入金	5,565	5,565
未払法人税等	7,273	6,340
賞与引当金	7,373	4,667
その他	54,274	51,131
流動負債合計	157,814	159,163
固定負債		
長期借入金	24,170	22,779
役員退職慰労引当金	273	241
退職給付に係る負債	4,512	4,549
資産除去債務	1,715	1,709
その他	46,316	44,695
固定負債合計	76,988	73,975
負債合計	234,802	233,139
純資産の部		
株主資本		
資本金	31,117	31,117
資本剰余金	42,516	42,242
利益剰余金	546,984	520,331
自己株式	△126,040	△111,947
株主資本合計	494,577	481,744
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,465	30,202
為替換算調整勘定	48,944	29,542
退職給付に係る調整累計額	4,143	4,117
その他の包括利益累計額合計	79,553	63,862
非支配株主持分	55,383	53,778
純資産合計	629,515	599,385
負債純資産合計	864,317	832,524

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
売上高	122,644	116,586
売上原価	48,921	47,934
売上総利益	73,722	68,652
販売費及び一般管理費	57,624	57,745
営業利益	16,098	10,906
営業外収益		
受取利息	3,488	2,778
受取配当金	1,101	1,060
持分法による投資利益	812	597
その他	1,204	2,463
営業外収益合計	6,606	6,898
営業外費用		
支払利息	181	305
その他	234	310
営業外費用合計	416	615
経常利益	22,288	17,190
特別利益		
固定資産売却益	76	63
投資有価証券売却益	1,949	1,419
特別利益合計	2,026	1,483
特別損失		
固定資産売却損	2	7
固定資産除却損	27	28
その他	0	—
特別損失合計	30	35
税金等調整前四半期純利益	24,284	18,638
法人税等	8,064	5,404
四半期純利益	16,219	13,233
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,129	1,635
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,089	11,597

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)
四半期純利益	16,219	13,233
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,549	3,735
為替換算調整勘定	22,929	△24,322
退職給付に係る調整額	23	△30
持分法適用会社に対する持分相当額	555	1,885
その他の包括利益合計	21,958	△18,731
四半期包括利益	38,177	△5,498
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	31,970	△4,092
非支配株主に係る四半期包括利益	6,207	△1,405

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自2025年4月1日至2025年6月30日)

当社は、2025年2月14日開催の取締役会決議に基づき、当第1四半期連結会計期間において、自己株式5,080,200株を取得したことにより自己株式が15,000百万円増加しました。また、2025年6月30日付で自己株式10,105,600株を消却したことにより資本剰余金が385百万円、利益剰余金が28,708百万円、自己株式が29,094百万円それぞれ減少しました。これらの結果、当第1四半期連結会計期間末において、資本剰余金が42,242百万円、利益剰余金が520,331百万円、自己株式が111,947百万円となっています。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

当社および国内連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しています。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含みます。)およびのれんの償却額は、以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年6月30日)
減価償却費	7,346百万円	7,038百万円
のれんの償却額	－百万円	92百万円

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位: 百万円)

	飲料および食品製造販売事業			
	(日本)	(米州)	(アジア・オセアニア)	(ヨーロッパ)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	59,941	23,627	29,335	3,166
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客に対する売上高	59,941	23,627	29,335	3,166
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,675	—	—	—
計	62,616	23,627	29,335	3,166
セグメント利益又は損失 (△)	12,659	7,165	1,650	△201

	その他事業	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
顧客との契約から生じる収益	6,573	—	122,644
その他の収益	—	—	—
外部顧客に対する売上高	6,573	—	122,644
セグメント間の内部売上高 又は振替高	624	△3,299	—
計	7,198	△3,299	122,644
セグメント利益又は損失 (△)	79	△5,255	16,098

(注) 1. 調整額は、以下のとおりです。

セグメント利益の調整額△5,255百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,258百万円が含まれています。全社費用は、報告セグメントに帰属しない親会社の総務部門等管理部門に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 日本以外の区分に属する主な国または地域

(1) 米州地域 ……………メキシコ、ブラジル、アメリカ

(2) アジア・オセアニア地域 ……香港、中国、インドネシア、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、インド、ベトナム、アラブ首長国連邦、ミャンマー

(3) ヨーロッパ地域 ……………オランダ、イギリス、ドイツ、ベルギー、オーストリア、イタリア

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高および利益または損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位：百万円)

	飲料および食品製造販売事業			
	(日本)	(米州)	(アジア・オセアニア)	(ヨーロッパ)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	57,166	21,686	29,457	3,200
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客に対する売上高	57,166	21,686	29,457	3,200
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,466	—	—	—
計	59,633	21,686	29,457	3,200
セグメント利益又は損失(△)	8,784	6,348	1,276	16

	その他事業	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
顧客との契約から生じる収益	5,075	—	116,586
その他の収益	—	—	—
外部顧客に対する売上高	5,075	—	116,586
セグメント間の内部売上高 又は振替高	635	△3,102	—
計	5,711	△3,102	116,586
セグメント利益又は損失(△)	△185	△5,332	10,906

(注) 1. 調整額は、以下のとおりです。

セグメント利益の調整額△5,332百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,594百万円が含まれています。全社費用は、報告セグメントに帰属しない親会社の総務部門等管理部門に係る費用です。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

3. 日本以外の区分に属する主な国または地域

(1) 米州地域 ……………メキシコ、ブラジル、アメリカ

(2) アジア・オセアニア地域 ……香港、中国、インドネシア、シンガポール、マレーシア、オーストラリア、インド、ベトナム、アラブ首長国連邦、ミャンマー

(3) ヨーロッパ地域 ……………オランダ、イギリス、ドイツ、ベルギー、オーストリア、イタリア